

平成18年度

病虫害発生予察特殊報(第4号)

平成18年9月28日
神奈川県病虫害防除所長

病虫害名：クワシロカイガラムシ

Pseudaulacaspis pentagona Targioni-Tozzetti

作物名：チャ

1 発生経過

- (1) 県西部でクワシロカイガラムシによる被害が出ているとの情報があり、平成18年9月に病虫害防除所職員が現地調査をしたところ、クワシロカイガラムシが確認された。
- (2) 現地での聞き取り調査では、2～3年前から寄生が見られていた。
- (3) クワシロカイガラムシによるチャの被害は、本県では初めての確認である。なお、他県のチャ産地では難防除害虫となっている。

2 形態および生態

(1) 形態

カメムシ目マルカイガラムシ科の昆虫で、2齢以降の幼虫と雌成虫はロウ物質に包まれた介殻を持つ。雌成虫の介殻は白色、ほぼ円形、扁平あるいは背面がやや隆起し、大きさは2.0～2.5mm程度。虫体は黄～橙黄色、無翅、ほぼ円形で、各腹節は弱く側方に張り出す。雄は1対の翅を持ち移動することができる。

(2) 生態

成虫で越冬。年平均気温14℃付近を境に、それより高い地域では年3回、低いと年2回発生する。幼虫と雌成虫が枝、幹に寄生し、しばしば群生する。卵は雌成虫の介殻下にまとまって産卵される。ふ化幼虫は歩行でき、木の分岐部や陰に移動して定着する。また、風に乗って移動することもある。定着後、脱皮して2齢幼虫になると脚は退化する。雌は3齢幼虫をへて成虫となり、雄は綿状のロウ物質で覆われた1mm程度の繭を形成した後、体長0.8mmの翅をもった成虫となる。

3 被害及び寄主植物

(1) 被害

幼虫と雌成虫が樹液を吸汁する。加害されると新芽が伸びず葉が黄化、落葉する。多発すると枝や幹の表面を真っ白に覆い尽くすこともあり、激しいときには枯死させる。特に陽の当たらない樹冠内部の枝や、主幹の地際部などに発生しやすい。

(2) 寄主植物

極めて広食性である。主な寄主作物はチャのほか、キウイフルーツ、ヤナギ、クワ、ナシ、モモ、カキ、キリ等。

4 防除対策

- (1) 防除適期は、ロウ状物質に幼虫が覆われる前のふ化最盛期（5月中旬～6月上旬頃、7月下旬～8月中旬頃）であり、寄生部位を中心に薬剤防除を行う。ふ化最盛期をのがすと、薬剤の効果は落ちるので注意する。また、枝幹に薬液がよくかかるように丁寧に散布する。
- (2) 早期発見に努め、苗木などに寄生が見られた場合、タワシやブラシ（またはジェットノズルによる高圧洗浄等）などで掻き落とす。
- (3) 整枝等の刈取残枝や抜根株を、他の茶園に投入したりしない。
- (4) 摘採機や整せん枝機は作業後よく清掃し、他の茶園への作業による虫の持ち込みを防ぐ。
- (5) 購入苗については、寄生がみられないか十分注意する。

クワシロカイガラムシの防除薬剤

薬剤名	使用時期及び回数	倍率
アプロード水和剤	摘採14日前・2回	1000倍
ダズバン乳剤40	摘採14日前・2回	1000倍
カルホス乳剤	摘採21日前・1回	1500倍
スプラサイド乳剤40	摘採14日前・1回	1000～1500倍
マシン油乳剤（97，98％）	マシン油乳剤は商品により使用基準が異なるので、各商品の記載に従うこと	

等

*アプロード水和剤は若齢幼虫にのみ有効。

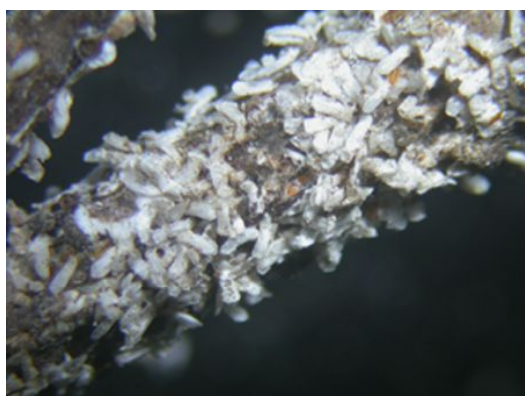
*マシン油乳剤は新芽の生育時期には使用しない。



被害茶園（枝が枯死している）



雌成虫（白い介殻をかぶっている）



雄まゆのコロニー

神奈川県病害虫防除所
〒259-1204 平塚市上吉沢1617
TEL 0463-58-0333
FAX 0463-59-7411
テレフォンサービス 0463-58-6612
<http://www.agri.pref.kanagawa.jp/boujoshu/top.asp>

